



チャイルド・ホープ・アクション沖縄 (CHAO チャオ) 旗揚げ地域円卓会議

支援団体同士連携しないと
子どもの貧困は解決しないのではないか

実施報告書

日時： 2017年3月22日（水）18:30-21:00
場所： 久場川児童館（沖縄県那覇市首里久場川町2-18）
主催： チャイルド・ホープ・アクション沖縄（CHAO チャオ）
協賛： 宗教法人 真如苑、一般社団法人 全国コミュニティ財団協会 CIモデル事業
共催： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】チャイルド・ホープ・アクション沖縄（CHAO チャオ）旗揚げ地域円卓会議



- 日 時：2017年3月22日（木）18:30-21:00
- 場 所：久場川児童館
- 着席者数：10名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：40名（NPO・市民団体、企業、行政）
- 主 催：チャイルド・ホープ・アクション沖縄（CHAO チャオ）
- 協 賛：宗教法人 真如苑、一般社団法人 全国コミュニティ財団協会 CIモデル事業
- 共 催：公益財団法人みらいファンド沖縄 NPO法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

横江 崇 氏（弁護士、NPO法人子どもシェルターおきなわ理事長、CHAO 代表）

支援団体同士連携しないと子どもの貧困は解決しないのではないか

今年度、沖縄県における子ども若者分野には、内閣府（10億円×3年）沖縄県（60億円×6年）予算及び県内企業による民間助成、寄付も含め多くの資金が投入されており、多くの人々が子どもを取り巻く問題を解消するために取り組んでいます。しかし、取り組んだ事業成果は共有されず個々で解決に取り組んでいるように見えます。

子どもの支援に取り組む団体同士だけでなく、課題解決に向けた行政や企業などとの連携が求められます。他分野にまたがる、より深刻な解決の難しい個別のケースや制度の狭間にある課題の共有と政策提言など、資金、人が動き出している今、それぞれの成果を共有し継続した仕組みにするための連携が求められます。

今回の地域円卓会議は、互いの団体が力をつけながら連携して子どもを取り組む問題の解消に向けた基盤をつくることを目的に課題を共有するために開催します。

センターメンバー



- | | | | | | | | |
|---|---|--|---|--------------------------------|--|------------------------------------|-------------------------|
| 横江 崇
弁護士
子どもシェルターおきなわ
理事長
CHAO 代表 | 小阪 亘
公益財団法人
みらいファン
ド沖縄
代表理事 | 秋吉 晴子
しんぐるまざ
あず・ふおー
らむ沖縄代表
CHAO 代表 | 喜舎場 健太
沖縄県子ども
生活福祉部
子ども未来政
策課 | 上間 陽子
琉球大学 教
育学研究科
教授 | 仲村 未央
沖縄県議会子
どもの未来応
援特別委員会
委員長 | 添石 幸伸
税理士法人添
石綜合会計事
務所 所長 | 田嶋 正雄
沖縄タイムス
社 記者 |
|---|---|--|---|--------------------------------|--|------------------------------------|-------------------------|

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 子どもシェルターの活動
 - ✓ 虐待を受けている等、家庭での生活が困難な、主に中学卒業～20歳未満の女の子の緊急避難先である
 - ✓ 児童相談所などから連絡がきて、入所する。期間は数日～2ヵ月で、問題が大きければそれ以上もある
 - ✓ 国の児童自立生活援助事業から資金を得ている
 - ✓ 部屋は、子ども用（一人一部屋の4部屋）、スタッフ用、共有スペースがある。場所は非公開
 - ✓ 2016年4月のオープンから2017年3月までに、12名の子を受け入れた。退所後は、家庭状況の調整後に自宅・親族宅に帰宅する場合や、一人暮らし（自立援助ホーム：沖縄に1ヶ所）、児童養護施設などに行く
- シェルターがどのような機関か周知させる機会が少ない、児童相談所、女性相談所、市町村、病院との連絡はしている。民間の子ども支援団体との繋がり薄い
- 2016年11月から沖縄県子ども生活福祉部子ども未来政策課が始まり（職員11名）、支援団体と大体の意見交換はできているが、連携をより深めていきたい
- 沖縄子どもの未来県民会議（以下、県民会議）とは、構成団体数105団体（横江さん、秋吉さんも参加）で昨年6月に設立し、沖縄全体の総力を合わせて貧困問題に立ち向かう組織である
- 県民会議の2つの目標は、①2030年には、全ての子どもが安心して過ごせる居場所を作る。②子どもの貧困率を29.9%（沖縄県調査）から10%にする
- 上間陽子先生：スーパーバイザーという立場で、ソーシャルワーカーや、小、中、高等学校の先生にアドバイスをしている中で、学校の先生からの相談は以下
 - ✓ 4月：子どもへの対応方法（友達関係、クラスへの定着）や、連携先
 - ✓ 5月：連休明けに、第2弾どうするか
 - ✓ 10月：学級の雰囲気が決まる時期
 - ✓ 12～1月：子どもが寂しい時期で、性的な問題が起こったりする
 - ✓ 3月：先生、学年が変わり、体制が変わる、新たにどうなに対応頂くか
 - ✓ 沖縄の貧困率は3割もあるはずだが、上間先生が対処できる程度しか来ていない。また、このサポートを県が出来ているように思えない
- 企業経営者の、一番の悩みは人材である
- みらいファンド沖縄は、93名の市民から寄付を頂き、設立資金とした、市民コミュニティ財団（全国に25か所程度）である。まちの中に貯金箱を作り、必要な時に助成する役割である。寄付総額：60,055,383円
 - ✓ 4年前に、「沖縄まちと子ども基金」を立ち上げた。現在の寄付総額は2,007,900円
- しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄
 - ✓ 当事者によるボランティア団体。スタッフは他に仕事をしていて、土日に活動している
 - ✓ スタッフも生活が苦しく、ライフラインを止められる人もいて、無償での活動が難しい
 - ✓ シングルマザーは生活に追われ、子どもとの時間もなかなか取れない。悩みを共有する相手もあまりいないので、ひと時でもリラックスして、お互いに話せる時間を持つために、セルフケア講座を開催している
 - ✓ 若狭公民館（第4日曜日）、人材育成交流センターめぶき（宜野湾市からの委託、第4土曜日）で月に1回、交流会（相談会を兼ね）を行っている。制度の支援策を伝える場でもある
 - ✓ 当事者の悩みを聞き、議会に陳情を出すなど、政策、制度に反映させる活動を行っている
 - ✓ 全国にある姉妹団体（東京の団体は40年以上活動）に、アドバイスを頂いたり、facebook等で繋がった方に制服などの生活用品を頂くなど、助けてもらっている
- 一人親の支援策（国、県、市町村）が当事者に伝わっていないことが非常に多い
- 沖縄県議会の委員会は行政の部ごとに審議をしている。しかし、垣根を越えて議論する意義を訴え、昨年に子どもの未来応援特別委員会を立ち上げた。各会派からそれぞれの割り当てに応じて決まったメンバーが13人いる
- 議員の関心は産業振興、インフラに行きがちで、今まで、子ども達に投資がされなかった。ここ数年で議会の中でも、子どもの貧困問題の議論が増えてきた
- 学校に配置されるソーシャルワーカーなどは、高い専門性をもつが非正規雇用である。支援側も不安定で、熱意と待遇が噛み合っていない。縦割りを突破できない支援側の苦しさもある。予算を付けていかないといけない
- 子ども達は自分が何に困っているか、他所と何が違うのか分からない。また、それを言語化できない

事例の提供

- 学校の先生は忙しく、貧困対策の仕事も増えることに、より冷淡になっている
- 沖縄県の公立高校入試において入学定員25名で受験者7名でも、合格5名と2名落ちている。定員に満たなくとも入学させていない

視点の提供

- 子どもシェルターは、まず保護をする緊急避難が目的である。そのため、シリアスになる前の支援や入所の紹介、退所後の自立支援にて連携が必要
- 資金援助側の思い込みの課題に助成せずに、課題をしっかり知り、解決するプロセスに助成しないといけない
- 支援団体同士の連携だけではどうしようもない。県の教育関係者と話し合うべき。現状を変えるには、学校の責任は大きい
- 企業は人材を確保するためにも、社会の課題にボランティアとしてではなく、お金も人も、一つの経費、投資としてやるべき
- キャリア教育を通して、企業が子ども達や学校の先生をどう支援できるか
- 企業の子どもの貧困問題に対する理解がないと、対策するのは難しいが、理解する機会が少ない
- 那覇市の人権擁護委員の時に、子どもや母親の悩みを聞いていた経験があるから、共感を持っている。企業がこの場に来て、現状を知り、関わりを持つべき
- 学校に来た 8 時間は幸せに居られ、その後の 8 時間は支援団体が何とかする状態をつくり、支援団体は法制度を知り、法制度を変えていく
- 受けられる支援は何があり、どう使用するのか、などの情報が行き届く方法を考える必要がある
- 秋吉さんの団体は、メンタルサポート、キャリア支援、食料支援、生活すべてに関わることで連携したい
- 「沖縄キャリア教育支援企業ネットワーク」では、企業にも関わる価値があることを、企業目線で伝えていく。子どもの貧困の支援団体にもなり得る
- 子どもの支援を学校だけで行う時代ではない
- しんどい子をもっといえるのでは、学校は何をしているのか、と支援団体の方から学校に揺さぶりをかけるべき
- 学校のマインドを変えるのは難しい。子どもの支援を行うと、学校も楽になると伝え、仲間をつくっていく
- 制度を変えるのは大変なので、待たなしの方に直接支援して、解決に動き出したい。そのため、緊急的などころと、政策提言の 2 つの連携が必要
- 調査データから、一人親と貧困の関係性が分かるので、皆さんと共有したい。そして、女性が自立していける地盤を作れば、子どもの貧困も無くなるはず
- どこが守備範囲か整理し、それぞれの団体の役割を共有する。そして、足りない所をケアしていくことが必要
- 学力、待機児童の問題の根っこは、世代間にわたる貧困の連鎖ではないか。若者の就労問題も、貧困の問題に関わることだ
- 地域が行ってきた支援と、ブームとして沢山立ち上がってきた支援との連携が必要。補助金、交付金等の予算の切れ目が支援の切れ目になっては良くない
- 予算を確保して、学校でサポーターやコーディネーターを専任で雇い、その方たちが、子ども達とスーパーバイザーや地域の支援団体を繋いでいくべき
- 就学援助を知らせる為に CM を行っている(県の事業)。しかし、子ども達は、制度の事を知らなくても恩恵を受けている状態でなくてはいけない
- 福祉の制度のほとんどが一定の層を抽出して支援するが、学校事務職員の労力が無駄に見える。全員無償の方が、事務コストが下がり、社会的にプラスになるのでは
- 支援団体の食料を取りに行くのは日中のため、動ける人が取りに行くなどの、連携があれば助かる

評価の提供

- 子どもシェルターが必要な子は、もっといるはずだが、広報不足である。その為、子ども支援の団体と子どもシェルターがもっと繋がるようにしたい
- 自立援助ホームは、手続きが大変など入所のハードルが高く、また、中のルールが厳しい。自由に家と避難場所を行き来できる、シェアハウス等が必要
- 自分たち団体の役割は分かっている、周りの他の団体の役割が、意外と分かっていない。そのため、次にどこかの支援先に繋げるのが適切か分からない
- 一人親が貧困の構造になっているが、ダイレクトの支援はなかなかない、訴えても届かない
- 学校が排除している子を、支援団体が引き受けている形になっている
- 教科書の副読本 1,187 円を買わないといけない義務教育はおかしい。学校にかかる私費負担を減らすべき
- 風俗業界の女性は生きる力があり、若年出産した女性の方が、生活がかなり厳しい
- 様々な資料に学校をプラットフォームに、と出てくるが、学校の現場では、これ以上担いきれない状況

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 各支援団体の知見を共有し、子どもへの足りない支援が何か、どれくらい必要なかを明確にする
- 各支援団体の専門を互いに知り、子どもへの足りない支援への役割分担と、連携による解決を探る
- 学校も支援の 1 プレーヤーとして立ち位置を明確にし、各支援団体と協働できる体制を確立させる

■参加者によるサブセッション

「学校との連携をどうしたらいいのか？」(原文のまま)

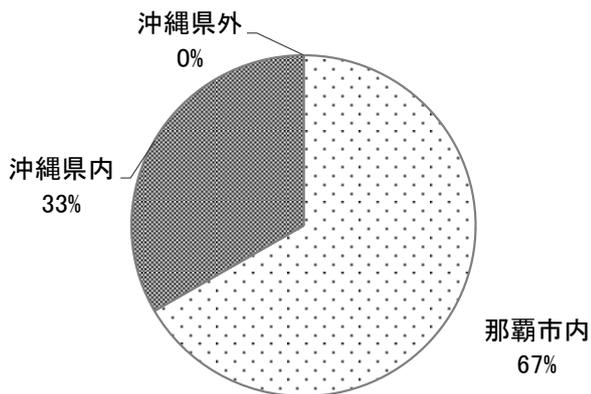
- ・寄りそい支援員どうした？どうする？
(子どもの貧困対策支援員)
 - ・子どもの SOS を早い段階でキャッチできる場
 - ・先生に人権教育を！→排除しない
 - ・排除ではなく、ゆだねる文化。
もちはもちや…
- ・先生を増やす。
 - ・先生と社会とつながる機会を増やす。(先生が)
 - ・非正規を減らす。
 - ・民間と先生の交流
- ・学校の日常化
 - ・評議員の立場を最大限活かす
- 学校のパワーアップ
 - ・行政(金) ←×でしょう
 - ・地域○→学校の仕事の精査→地域でできることは地域で！
- 子ども達の為に！→
どのようなメリット。権限をどうするか？
→企業の連携、各専門職の入門、職業につなげる(ヒント)→キャリア教育
お金を稼ぐ方法を見つける。
- 学校の先生たちへのアプローチ
 - 行政のアプローチが大事
 - 支援団体
 - まずはアクションを起こす！
- CSW 教育委員会のバックアップ
 - ・学習指導要領
 - ・連携側が学校を知らないのでは？学校を理解する。
 - ・繋がった方が、悩みも共有できる。先生たちも
 - ・先生たちに気づきがあれば！
 - ・つながるスキル・コーディネーター
 - ・ケース会議を作る人を専任で！
- 市民向けオープンスクール、学校活動に市民が入っていけるシステム
- テストをなくす。
- 学校も地域だ
- 学校との連携どうしたらいいのか!?
 - ・学校のカベ→何故？・先生が忙しい。・人ごと(親の責任…)
 - ・管理強化
 - モデル校・地域連携を模索する。→好事例できると連鎖するのでは？
 - 学校を開くような凡を周りからおこす！！
 - ☆兵庫県は、良い取り組みしている！！

チャイルド・ホープ・アクション沖縄（CHAO チャオ）旗揚げ地域円卓会議 参加者アンケート集計

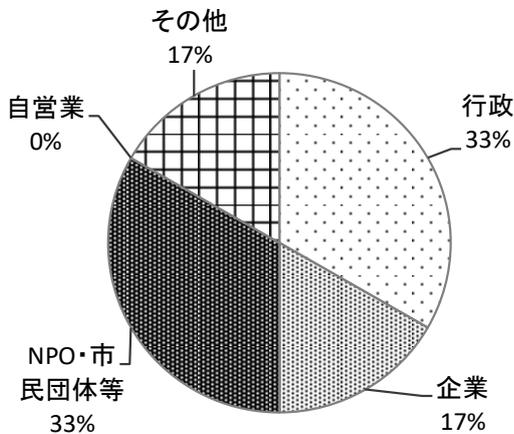
◆概要

- ・日 時：2017年3月22日（木）18:30～21:00
- ・場 所：久場川児童館
- ・着席者：10名（司会、記録含む）
- ・参加者：40名（アンケート回収6名、回収率15%）

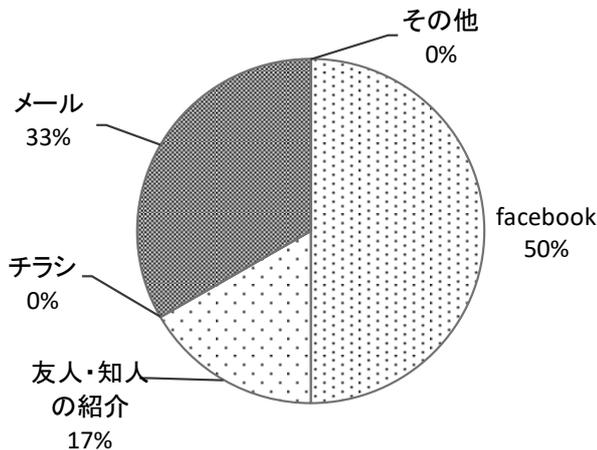
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足していない	1. 不満足
3名	3名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・大変参考になりました。
- ・スタートライン
- ・自分自身がとても関心があるテーマで、社協としても今後、その課題を取り組み、どうしていくか!?話し合わねばっと思っていたところなので。

(4. 概ね満足)

- ・様々な問題が見えた
- ・子どもが通う学校が核になっていく人だなーと強烈に感じました。後はそことどう関わっていくか。
- ・いい話を聞けたと思う一方で、考えを深める、ひらめく時間が少なかった。

6. 印象に残ったこと

- ・「ゆさぶる」
- ・学校を、大人にとっても日常化する。「地域」って何？誰を指すの？
- ・"学校との連携!!が肝であることに確信が持てた!!どの連絡会でも、その話題がよくでるので。円卓の魅力は無限大ですね♡

(写真) 会場の様子



Child Home Action / 沖縄 (EHAO) 旗揚げ

2017年 18:30~21:00
3/22 (木) 会場: 児童館

子どもを育てる沖縄を ママから文化へ 円卓会議

支援団体同士連携の大切さ
子どもの貧困は解決しないといけないか

主催: Child Home Action (EHAO) 旗揚げ

1) 18:30-19:00 開会
2) 19:00-20:00 基調講演
3) 20:00-21:00 円卓会議

参加費: 無料

講師: 小島 真由美 (NPO法人 小島会)

参加者: 伊藤 由紀子 (NPO法人 小島会)

会場: 児童館

論点提供

横江 さん (30代前半 主婦) CHAO 旗揚げ

子どもを育てる
個室
児童相談所から
女性相談所(市役所等)

2016/4月へ開所
12名の少人数
少ない
広報不足
知ってる人
から

2016/4月へ開所
12名の少人数
少ない
広報不足
知ってる人
から

生活費
生活費
生活費

生活費
生活費
生活費

生活費
生活費
生活費

民間の支援団体の連携

2016年設立
公益財団法人
市民センター(民間)

低所得の子どもたちを
支援(経済)の連携

退所後の支援不足
自由な生活を送る機会
ありたいが
入居の困難

2016年設立
公益財団法人
市民センター(民間)

連携先
資金がある → 連携が
深くなる

連携先
資金がある → 連携が
深くなる

連携先

生活費
生活費
生活費

連携先

11.5, 10月が多い
12月 → 30代前半の
11月 → 12月 → 30代前半の

11.5, 10月が多い
12月 → 30代前半の
11月 → 12月 → 30代前半の

11.5, 10月が多い
12月 → 30代前半の
11月 → 12月 → 30代前半の

11.5, 10月が多い
12月 → 30代前半の
11月 → 12月 → 30代前半の

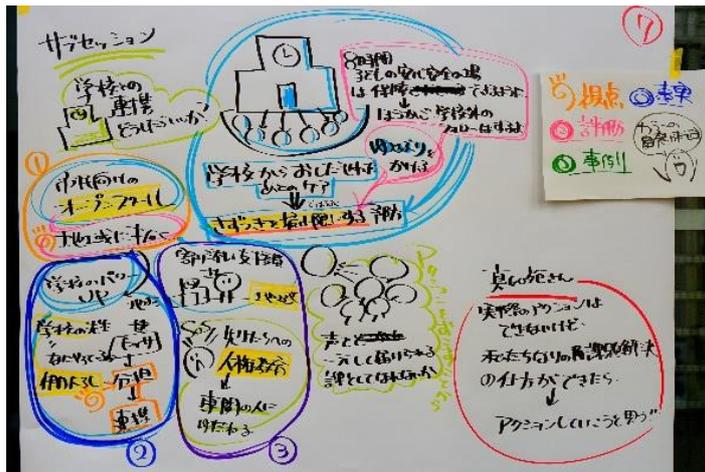
連携先

連携先
連携先
連携先

連携先
連携先
連携先

連携先
連携先
連携先

連携先
連携先
連携先



学校との連携

行政 (金) → 学校との連携

市民 → 学校との連携

学校の仕事は地域の宝

企業のけんけい

各専門職の連携 (ネット)

企業の人材

職員のつながり (ネット)

子供達の為

キッズ教育

（お金をかせる方法を見つけろ）

寄附員支援員 何して? どうする?

(子供の貧困対策支援員)

子供のSDSEを早い段階で

キッズ教育

先生に人権教育を!

↓

排除しない

排除はよくない

先生を増やす

社会とつながる機会をふやす (先生が)

非正規をへらす

民間との先生の交流

市民向けオープンスクール

学校活動に市民が入るためのシステム

学校の先生たちへのアプローチ

行政のアプローチが大事

支援団体

共.アクションを起す!

学校の日常化

評議員の立場と最大限

いかに

学校との連携 どうしたらいいの?

学校のカバ ⇒ モデル校

↓

何故?

先生が忙しい

人ごと(親の責任...)

管理強化

地域の人材を模倣する

好事例をまねて

連金できるのでは?

学校と関係なく

凡そ周知から

CSW

教員会委員のバックアップ

学習指導要領

連携側から学校をどうするの? (学校の課題)

つながりがない 横断的連携をどうする?